

第23回那覇地区中学校軟式野球春季1年生強化試合要項

1. 主催 那覇地区中学校体育連盟野球専門部
2. 期日 令和3年12月4日(土)～令和4年2月6日(日)
3. 日程 令和3年12月4日(土)～令和4年2月6日(日) 1回戦～3回戦
令和4年2月11日(金) 競技開始 9:00(準決勝・決勝戦)
予備日 2月12日(土)
4. 会場 令和3年12月4日(土)～令和4年2月6日(日) 当該校で調整
令和4年2月11日(金) 調整中
5. 申込締切日 令和3年10月29日(金)までに専門部長へ参加の有無を回答する
7. 申込方法 (1)大会参加申込用紙は那覇地区中体連野球専門部HPからダウンロードし、必要事項を記入後、
学校長の捺印を受け、試合当日に各会場の本部へ7時30分までに提出する。
(2)試合球3球、ロジン1個を提出する。
8. 企画運営責任者 那覇地区中体連野球専門部
石原孝之(松城中)、渡嘉敷光範(仲井真中)、大浜淳一(仲西中)、宮國稔基(城北中)、仲村竜太(浦添中)、照屋茂伸(次郎(上山中)、山里毅(松島中)、宮良淳(仲西中)、當間栄太(仲西中)、野原大輝(浦西中)、安次富晃(浦西中)根間高陵太朗(首里中)、宮城尚久(神森中)、島袋剛(松島中)、下里洋介(松島中)、山城千尋(松島中)足立忠敬(神原中)志中)、伊佐常克(金城中)、多和田真司(寄宮中)、大城征一郎(古蔵中)、比嘉政人(小禄中)謝花廉(仲井真中)、仲本瑞慶山良樹(港川中)、新田宗矢(石嶺中)、座波清匡(鏡原中)
- 運営委員 那覇地区中体連加盟校に所属する野球部全顧問
9. 参加資格 (1)那覇地区中体連加盟校に在籍する1年生で編成されたチームで、1校1チームとする。(合同チームも認め
(2)学校長が選手として本大会に出場を許可したものであること。
(3)選手の引率は、出場校の校長・教員とする。監督等については校長・教職員(常勤)とする。教職員以外のコーチについては、学校長の認めた者で、地区・県に登録された者とする。
但し、ベンチ入りについては1名のみとする。
(4)硬式ボールを使用球としている団体に所属しているチームとその構成員の出場は認めない。
(5)参加資格の特例を認める。「開催基準8(6)複数合同チーム」(県に準ずる)
10. 競技規則 2021年公認野球規則及び全日本軟式野球連盟特別競技規則、大会細則を適用する。
投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、下記の通りとする。
・大会中の1日の投球制限・・・100球
・1週間の投球数・・・350球
※試合中に100球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するまで投球できる。
11. 大会規定 (1)トーナメント方式とする。
(2)競技形式はトーナメント方式及びアテスト方式とする
(3)1チームの選手参加人数の上限は規定しない。監督、記録員はそれぞれ1人、コーチは2人とする。
(4)背番号は、原則としてポジション順とする。21番以降の選手についても背番号を着用すること。
(5)試合は7回戦とし、得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。
なお、決勝戦にも適用する。
日没・降雨などで試合が成立しない場合は、特別継続試合(サスペンテッドゲーム)を適用する。

(6)7回を完了して同点の場合は、のタイブレーク方式とする。(継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁の奏者とする。すなわち0アウト・二塁の状態にして行う。)10回を完了しても決着がつかないときは、抽選で勝敗を決定する。ただし、決勝戦の場合は、投手の投球制限を遵守の上、勝敗が決定するまでタイブレーク
12. 試合球 全日本軟式野球連盟公認内外ボールM号球とする
13. 組合せ (1)令和3年10月29日(金)に行う
14. 表彰 優勝チームには賞状、準優勝・3位のチームには賞状を与える。また、個人賞として殊勲賞・敢闘賞・打撃賞一位を表彰する。(個人賞は決勝戦進出校から選出し、打撃賞は準決勝、決勝戦をあわせた規定打席4打席以上の打者とする)
15. その他 (1)チームの責任は、引率者において、一切負うものとする
(2)今大会の上位4チームには、第31回 那覇地区中学校軟式野球1・2年生強化大会へのシード権を与える

第23回那覇地区中学校軟式野球春季1年生強化試合細則

1. 試合時間 (1) 試合は90分と計算し、その60分前までには集合する。
(2) 連続試合の場合は間隔を30分とする。
2. オーダー交換 (1) オーダー用紙は大会本部の用紙を使用する。(4部提出)
(2) 攻守決定は、前の試合の4イニング終了時(第1試合は試合開始45分前)に監督立ち会いの上、主将が行う。但し、連続試合で先発投手が主将の場合は、登録メンバーから代理を認める。
3. ダッグアウト (1) 抽選番号の若い方が1塁側とする。但し、同一チームが連続して試合を行う場合は移動しない。登録された監督、コーチ、選手、記録員以外のベンチ入りは禁止する。
(2) ダッグアウト外からの選手への指示、アドバイスは禁止。
(3) ダッグアウト内でのメガホン使用は監督、コーチのみとする。(ベンチ内1個とする。)
4. シートノック (1) シートノックは、全試合後攻より行う。時間は5分間とする。
(2) シートノック時のみ、補助員(5名以内)を認める。なお、ユニフォーム、ヘルメットを着用すること。(2年生可)
(3) ノッカーは、ユニフォームを着用する。
(4) 1日で2試合を行うチームは、シートノックを1試合目のみ行う。なお、天候などにより球場を移動して試合を行う場合は、本部に確認の上、シートノックを行う場合もある。
※天候の理由でシートノックを行わない場合もある。その場合は試合時間を早めることもある。
5. 応援 (1) 選手・応援団は中学生としてふさわしい応援をする。(野次はつつしむ)
(2) 応援は攻撃側のチームが優先に行う。
(3) 会場によっては太鼓による応援を禁止する場合もある。
6. 守備側と攻撃側のタイムの回数制限 (1) 捕手または内野手が、1試合に投手の所へ行ける回数は、7イニングで3度以内とする。
なお、延長戦(タイブレークも含む)となった場合は、1イニングに1度行くことができる。
また、攻撃側についても同様とする。
7. 監督が投手の所へ行く回数の制限 (1) 監督が1試合に投手のところへ行ける回数は 3回以内とする。なお、延長戦(タイブレークも含む)は、1イニングに1回行くことができる。
(2) 監督が同一イニングに同一投手の所へ2度目に行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代しなければならない。なお、他の守備についたときは、同一イニングには再び投手には戻れない。
8. 用具 (1) リストガード、バットリング、トレーニングバット、マスコットバット、スプレー(滑り止め)の使用を禁止する。
(2) 手袋は、原則として「白」または「黒」を主にした高校野球対応の手袋を使用する。
(3) 全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が完全に消えた用具は使用できない。
(4) 捕手は全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った捕手用ヘルメット・マスク・スロートガード・プロテクター・レガースとファウルカップを使用すること。
また、打者・走者・次打者・ベースコーチ・バットボーイは全日本軟式野球連盟公認マーク(J.S.B.B.)が入った両側にイヤラップ(内側にはスポンジ等)のついたヘルメットを使用すること。
9. 試合のスピード化 (1) 打者・次打者・ベースコーチの4名は攻撃前のミーティングには参加せず、所定の場所に移動すること。
(2) 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球すること。
(3) 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
(4) 次打者席では、投手が投球姿勢に入ったら素振りをしてはならない。投手も必ず次打者席に入ること。
(5) サイン交換は迅速に行うこと。打者はバッターボックス内でサインを見る。
10. その他 (1) チームの選手(監督・コーチ含む)は同色、同形のユニフォームを着用する。グラウンドコートも同様とする。尚、監督・コーチのシューズについても同色とする。
(シューズ・スパイクにおいては令和3年度までの大会において色の混在を認める。なお、高校野球対応のものとする。)
コーチ(教職員)の服装は平服でもよい。また、記録員はユニフォームか制服とする。
(2) ストッキングの形をしっかりと統一する。
(3) 選手交代は、監督が球審に告げること。
(4) 球場内における試合前の練習はユニフォームを着用すること。
(5) 芝生保護のため各球場において正規のシートノック以外はスパイク以外で行うこと。
(6) 球場内のバッティング練習は、バント・トスバッティング(1対1)までとする。
(7) 試合中のアップ(キャッチボール)については2組(4名以内)とする。
(8) 審判は各校から成人1名、中学2年生以上1名の計2名を派遣する。審判員は2・3年生の野球部員または父母の協力を得て良い。
(9) 準決勝からは那覇地区中体連野球専門部職員で行う。

※ 大会参加に当たり、氏名、学校名、学年及び対戦結果、記録、画像等を主催者が発行・販売する大会冊子、出版物、ホームページ、及びマスコミへの公表に使用することがあります。